

Wing21

いはらき



切削加工のみで製作したアロワナ(有限会社今橋製作所)



財団法人茨城県中小企業振興公社

INDEX

きらり企業	2
ベンチャープラザだより	4
公社だより	6
スポットライト	7
お役立ち経営情報	8
金融支援策のご案内	11
イベントカレンダー	14

難形状加工に果敢にチャレンジ！ 有限会社今橋製作所

会 社 概 要

- 創 業 昭和39年7月
- 資 本 金 3,000千円
- 従 業 員 14人
- 所 在 地 日立市十王町伊師20-42
(伊師工業団地内)
- T E L 0294-39-1161
- F A X 0294-39-1162
- U R L <http://park23.wakwak.com/~imahashi-ss/index.html>
- 事業内容 アルミ精密加工、難削材加工各種製造
装置の機械部品加工

今回は、「難形状の切削加工」に果敢に取組み、同時に「高精度、超短納期対応」のモノづくりを可能としている有限会社今橋製作所の代表取締役今橋松男氏と常務取締役の今橋正守氏にお話を伺った。

事業概要

同社は、現代表の父が、昭和39年に日立市会瀬町で創業した。その後、東大沼町への移転を経て、平成18年に現工場に移転し、現在に至っている。

創業当初は、治工具を中心とした旋盤による単品加工を主としていたが、工場移転とともに業容拡大させてきた。近時は、同時5軸制御マシニングセンター導入と、高難度の加工を実現する技術者の育成、ISO9001の取得により、生き残りをかけた社内体制の整備を推進してきた。

難形状加工への取り組み

同社の大きな強みの一つは、金属を複雑形状に加工する切削技術である。それは、一貫した『モノづくり』へのこだわりである。社長自身、「他でできない仕事を積極的に引き受けてきた」と話すとおり、



「できないと言わない」ことを大きなモットーとしている。「できないことを理由にするのではなく、どうしたらできるのかをまず考える事が成長の第一歩であるはず」と常務自身も考えており、社内には「難しい加工ほど積極的にチャレンジする」精神が創業以来、脈々と息づいていることが伺える。



作業風景

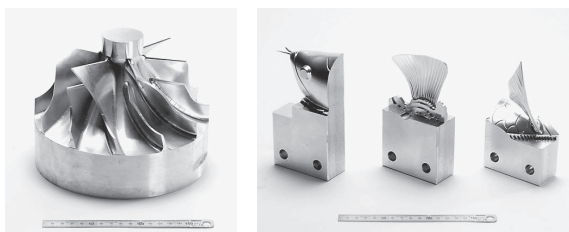
その精神が形となって表現されたものが、常務をはじめ社員自身が独自に構想・製作をした「切削加工のみで仕上げたオブジェ（表紙・下部写真参照）」である。これは、同時5軸制御マシニングセンターを駆使して、切削加工のみで製作したものである。

作品の構想段階から仕上げに至るまで、自社内で試行錯誤を繰り返しながら完成させた。完成に至るまでには半年がかかり、その間の活動が、直接利益に結びつくわけではないが、「製作に関わった各々が、完成に向けて自主的な活動と試行錯誤を繰り返したことは、今後に繋がる大きな財産となるはず。また、この自主的な取り組みをきっかけとして、自社の新たな展開の第一歩としていきたい。」と常務は語ってくれた。

営業力強化(ホームページ一新)

「技術力×営業力＝自社の力」と考え、そのため、技術力の向上だけに目を奪われるのではなく、その技術を的確に PR するための営業力の強化にも力を入れている。

まず、第1の試みとして、自社のホームページを昨年12月に一新した。これまでのホームページは、先方からのアプローチを待つだけの「受け身」の姿勢であり、自社の強みを最大限 PR できていないのではないかと歯がゆさを感じていた。その状況を打破すべく「自社の強みは何か？」を再度練り直し、また「見る側」の立場となり、「顧客が自社に何を求めているのか？そして何について協力ができるのか？」を改めて考え直し、現在のホームページを完成させた。充分良好な手応えを実感したものの、これで満足するのではなく、さらに良い HP に進化させていくこととしている。



インペラ同時5軸加工、多軸加工製品

コミュニケーションを大事に

社内でのコミュニケーションは、会社発展のため

の最も欠かせない要素の一つとして位置付けている。通常は、一方的な情報伝達で終わってしまうことがほとんどであるが、社員間の対話の場を積極的に作ることを心掛けている。そのような「意見を話しやすい」社内の雰囲気づくりに心を配ることで、社内のチームワークが醸成されてくるのはもちろんのこと、意思疎通が滞りがちな「営業」と「現場」の情報共有を図るうえでも非常に役に立っている。

また昨年から、社会貢献活動として、茨城大学工学部 FormulaSAE 部(自動車製作活動)に無償で工場設備の開放、部品提供等を行っている。学生と社員の交流は、社内にも新鮮な影響を与えており、自社を客観視できる良い機会となり、今後もこのような交流を継続することになっている。

今後について

今後は、自社の特徴である「難形状加工」「アルミの高精度加工」「超短納期対応」を最大限に生かし、「試作・開発分野」への参入を目指している。その布石として品質管理体制を整えるための3次元測定機の導入を予定しているが、設備等のハード面の充実だけに目を向けるのではなく、社員一人一人の力が最大限発揮できるような社内の仕組みづくりも構想中である。

最後に、今橋常務は、「自社の発展とあわせて、『茨城発モノづくり』の発展のための役割を担えるよう、社員一同今後も頑張っていきたい。」と力強く話してくれた。



5Sが徹底された工場内